

第377回放送番組審議会

1 日 時 2017年7月18日(火)16時～17時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者7名、欠席者1名 伊藤有孝委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、五大路子委員、吉川知恵子委員、二宮泉委員
tvk; 中村行宏社長、押川渉取締役、熊谷典和コンテンツ局長、武富俊一プロデューサー、近藤和之編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①7月のタイムテーブル

②7月～8月の特番一覧表

(2)視聴合評

『カナフルTV』

2017年7月2日(日)午前9時30分～10時00分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2017年6月17日(土)～2017年7月14日(金)

・第376回(6月)放送番組審議会の議事報告

(「猫ひたプラス」2017年7月7日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2017年7月7日(金)「猫ひたプラス」(12:00～12:15)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

近藤編成部長 放送番組審議会を始めさせていただきます。放送番組審議会を始める前に、6月いっぱいまで二宮務先生がご退任されましたので、二宮泉先生が7月1日より着任します。中村の方から委嘱状を。

中村社長 「委嘱状 二宮泉殿 株式会社テレビ神奈川の放送番組審議会委員を委嘱いたします。平成29年7月1日 株式会社テレビ神奈川 代表取締役社長 中村行宏」。どうぞよろしくお願ひいたします。

近藤編成部長 それでは第377回放送番組審議会を始めさせていただきたいと思ひます。委員長よろしくお願ひします。

山田委員長 それでは始めさせていただきます。今日は雨で中止になったそうですが、夏の高校野球全国大会、今は地方大会ですが、全国津々浦々で熱戦が繰り広げられております。7月8日土曜日の開会式はテレビ神奈川がもちろん中継したんですが、私は朝11時半ごろから缶ビールを片手にテレビの前におりまして拝見させていただきました。やはり参加校が多いということはとても壮観でして、そしてテレビ神奈川のカメラワークもとてもよく、球場にいるような感じで見させていただきました。最近の高校生、選手宣誓なんかも声が大きいだけでなく、非常に洒落たことを言うなど感心して聞いておりました。この中から果たして、将来この横浜スタジアムでプレーするプロ野球の選手は何人ぐらいいるのかな、なんて思ひますと楽しくなりまして、缶ビールがつい2本3本と手を伸ばしてしまいました。沖縄では早くも古豪といひますか興南高校の出場が決まっておりますが、神奈川県はどこになるのか、今から楽しみですね。それでは第377回目の番組審議会を始めさせていただきます。では中村社長の方からよろしくお願ひいたします。

中村社長 中村でございます。本日もお忙しいところをありがとうございます。天気が予報でも言っておりましたが、急に雷も相当鳴って雷雨ということになりました。

委員長もおっしゃっていましたが、高校野球の2回戦、2試合目が小田原以外は中止ということになったようです。こうした雨の凄まじさと言うんでしょうか、先日の福岡、大分九州北部での大災害というのを目の当たりにして。これは気候変動の影響かどうかわかりませんが、本当にゲリラ豪雨というよりもそこに前線が停滞してしまうということのようですが。昨今こういうことが非常に多いということで。実は今日うちの担当者に総務省絡みのほうになりますけれども、「Lアラートが九州北部で機能したのか」ということを問い合わせさせましたところ、福岡県はLアラートに参画をしていないそうです、まだ。そういう意味で、それぞれの県から、あるいは市町村から、いわゆる無線放送、スピーカーで呼びかけたりとか、多分そういうことしか行われていなかったのかなと。これはまだ推測ですが。そんなようなことだったようです。この神奈川県でいいますと、今県下で33市町村ありますが、そのうちの約半分18~19ぐらいの市町村は、私どものデータ放送というところにページを持っていて、そうした避難勧告を含む一番危ない4情報に関しては、それぞれの市町村がパソコンでバーツと打つと、それがすぐにうちのデータ放送で反映されて、それぞれの郵便番号別に、それぞれの家庭には、tvkにチャンネルを合わせれば、強制的にそれが露出されるという対応を取っていますが。ただ今申し上げたようにまだ、残りの13~14は契約していないということで、現実にはそうした情報がデータ放送で瞬時に流れるということにはなっておりません。まだこれから、どういふふうにできるかあれですけども。Lアラート情報が全市町村、つまりは県民すべての家庭に、何とか私どものデータ放送で流れるようにはできないかなと。だいぶ前から検討はしているんですが。こうした九州北部の災害を機に、そこら辺も考えていきたいなというようなことを思い始めているところです。いずれにせよ、避難を少しでも早くしていただけることをや

ることが、私ども地域のメディアとしての役割の一つとっております。そんなことを感じた今日この頃、今日突然こんな天気だったものですので、本日もよろしく願いいたします。

山田委員長 ありがとうございます。それでは本日の議題に沿って進めてまいりたいと思います。まず最初に放送番組について。これはお手元の7月のタイムテーブル、7月から8月にかけての特番一覧表を参照していただきながら、事務局からお願いいたします。

近藤編成部長 はい、それではまず7月のタイムテーブル、こちらの方のご紹介です。表紙は7月神奈川県大会ということで、昨年の優勝校横浜高校の写真を表紙に配しました。めくって、7月の場合はすべて「山型」になっておりますので、こちらを視聴者の皆さまにはポスター等々でもお配りしていますが、これを線つぶしていくことがみなさんお楽しみになっているようですので、今年も、専門学校の日本文学院の生徒さんに作っていただいたイラストの中に山型を配しています。続きましてピックアップということで、「キンシオ」が8年目も続いているよと。あとは7月からドラマ「あぶない刑事」を7月10日よりスタートしています。あとは「歴史漫才ヒストリーズ・ジャパン」。これは前回の放送番組審議会でもご紹介しましたが、製作委員会物で7月からのスタートです。タイムテーブルをはさみまして、その後ろはこの後ご紹介させていただきますスペシャルプログラムとなっております。もう1つは「やきそば通信」ということで、今回から、編成部の広報を担当しております木村という広報担当が「やきそば」というあだ名で呼ばれているんですが、その木村が根岸アナウンサーがどのように中継に携わっているかということを取材して、このような連載物を今回から始めております。タイムテーブルは以上です。続きまして7月8月特別番組一覧です。A4のこちらの紙になります。7月14日金曜日から「都市対抗野球

ダイジェスト」が始まっております。7月25日まで東京ドームで開催しております。神奈川県としては三菱日立パワーシステムズ、横浜市から2年連続9回目、東芝さんが9年連続39回目ということで、都市対抗野球出場しております。これをダイジェストでテレビ埼玉さんの制作で、毎日23時よりオンエアしております。続きまして7月19日、こちらも前回の放送番組審議会でご紹介させていただきましたが、イケメン二人による伊豆下田の観光紹介番組になっております。続きまして「歴タメLive」こちらは「歴史エンタメライブ」の略でございます、今私どものお昼の番組「猫のひたいほどワイド」に出演しております八神君が出演しています。「教科書に載っていない歴史上の偉人たちの興味深いエピソードやおもしろエピソードを、ショートストーリー仕立てのコントと歌やダンス、トークで繰り広げる歴史の総合エンタテインメント」という形の5分番組で、こちらの方が持ち込みで放映します。その後7月29日「SUMMER SONIC 2017 まだ間に合う サマソニへ行こう!」。こちらの方は8月19日、20日幕張メッセで行われますサマーソニック、こちらの紹介番組になっています。その後7月30日に横浜市長選挙がございます。20時から「横浜市長選挙出口調査速報」、23時30分から「横浜市長選挙開票速報」ということで、現職の林市長が3選を目指し、あとは元衆議院議員の長島氏、市議の伊藤氏の3者の選挙になります。前回の横浜市長選挙は29.05%、史上最低に落ち込みましたので、今回の投票率がどのようになるかも注目していただければと思います。その後8月6日は「高校野球壮行特番」。現在行われている神奈川県大会の優勝校の甲子園までの軌跡を追っていきましょう。8月12日「報道特番 見えない壁～津久井やまゆり園殺傷事件～」こちらが9月の放送番組審議会の合評番組になっておりますので、ぜひご覧ください。昨年7月26日に19人を刺殺して26人に重軽傷を負わせたという、

本当に悲惨な事件だったんですが、この番組に関しては容疑者に当てたわけではなく、障がい者とのように共生していくかということに焦点を当てた番組構成となっていると、報道の方から聞いておりますので、こちらをご覧になって、9月のときに活発なご意見等をいただければと思います。8月13日「マリアと緑のプリンセス」。こちらは毎年恒例になります。2017年9月2日KAA Tの方でtvk主催で行われる演劇で、こちらの事前特番になります。8月20日「じゃ、西さがみでも行くか！って「西さがみ」ってどこ？ザ・スペシャル！！」ということで、西相模ということで、小田原箱根の観光特番です。営業持ち込みでオンエアいたします。その後8月27日「トモダチゲーム劇場版ナビ番組」。前作トモダチゲームは製作委員会物でしたけれども、第2弾の映画公開が迫っていますので、そちらのナビ番組になります。8月27日は「専修大学カップ神奈川県学童軟式野球選手権大会」。8月4日から8月10日まで行われて、2006年から行われていまして、11年目に突入しますが、こちらをダイジェストでお送りします。7月8月の特別番組一覧は以上です。

山田委員長 ありがとうございます。事務局から7月から8月にかけての番組の紹介がございましたが、これについて何かご意見、ご質問等がございましたら。

林委員 いいですか。

山田委員長 どうぞ。

林委員 特番についてですが、今、制作途中ということですか。

近藤編成部長 やまゆりですか。

林委員 はい。

近藤編成部長 制作途中です。

林委員 これはどなたかゲストをお招きしてお話を伺うというのではなくて。

近藤編成部長 インタビュー構成というふうに。遺族の方です。

林委員 いわゆるそういった関係の分野の専門家じゃなくて。

近藤編成部長 おそらくその中に先生とかも入ってくるかもしれませんが、今聞いているところでは、インタビューを中心にした構成です。

林委員 そうですか。

山田委員長 これは、取材は割合簡単に。

近藤編成部長 いえ、難航したらしいです。最初は30分番組を予定していたんですが、それでもやはり、いろいろな思いの方がいらっちゃって、いいインタビューが撮れなかったらしくて、55分という番組になりました。

山田委員長 この事件が起きたときに、いわゆる活字メディアに関しては割合取材対応はちょっとゆるやかだったんですが、いわゆる映像関係は大変厳しいといわれていますが、よくこれはできたなという感じがいたしました。他にございますか。

白石委員 特番の件なんですけど、遺族中心ということなんですけど、例えば県とか施設に期待する方とかいろんな方がいらっしゃるんですけど、中心は遺族ですか。

近藤編成部長 中心は遺族になると思います。神奈川県さんの方がどういう政策、神奈川県さんの方が共生というキーワードで今年はやられているので、そういうところでのインタビューはあると思います。

白石委員 重い番組になっちゃう気がしますが。

近藤編成部長 そうですね。重い番組というのは最初、僕の方も懸念したんですが、いかに障がい者たちと向き合って、僕らが一緒に生きていくかという、逆に前向きな形のもので作ってほしいということは報道の方をお願いしています。

白石委員 ありがとうございます。

山田委員長 他にございますか。ないようでしたら、2番目の視聴合評に移りたいと思います。

近藤編成部長

視聴合評は神奈川県さんの広報番組になります。毎週日曜日午前9時30分から10時にお送りしています「カナフルTV」です。本日は2017年7月2日のものを合評させていただきます。よろしくお願いします。

視 聴 合 評

近藤編成部長

以上になります。本日はプロデューサーの武富が来ております。それと本日欠席しました伊藤先生からメールをいただいておりますので、私の方から伊藤先生の講評をご紹介します。『『日本一宇宙に近い場所』と銘打った相模原市のJAXA周辺の案内の回。田崎さん、瞳さん、ウッズさん3人の手慣れた進行に安定感を感じて好印象。神奈川県のあるゆるスポットを紹介する、という点では「猫のひたいワイド」などとも共通するが、ウッズさんの関西弁テンションでどんどん入り込んで行く取材推進力は見事であり、事前交渉はされていても、各施設スタッフの、「では特別にお見せしましょう」の表情は、番組を見る側にも美味しいポイントだ。見所の「望遠鏡」、JAXA宇宙教育センター、はもっと時間をかけて見せても良い施設の充実度を感じた。映像全般の色彩が少しくすんで見えたのが、機材のせいかもしれないが、改善されると良いと感じた。番組を知るためにホームページを見たところ、今までと変わっており、水色のメニューアイコンがどれに当たるかとても見にくくなっていたので、ぜひ改善してほしい」ということを伊藤先生からいただいております。すみません、先に言ってしまって。それではよろしくお願いします。

武富プロデューサー

制作の武富と申します。よろしくお願いします。「カナフルTV」は2010年の4月にスタートしました。今期8年目を迎えている神奈川県の実験放送局の広報番組です。「知って得する情報を、明るく楽しくわかりやすくお届けする」ということをテーマに、現在田崎MCと4組のレポーター、そして月に1度県知事にスタジオに来ていただいて、毎週番組を放送しております。収録は毎週火曜日ですの

で、実は先ほどまで県知事に出演していただいて「共に生きる」ということをテーマに収録しておりました。いろいろなテーマを、観光スポット紹介から県政について、それからこのようなJAXAとか、福祉内容等々いろいろなテーマをお送りしている番組です。

山田委員長

ありがとうございました。それでは委員の皆さんからご意見などをいただきます。ではトップバッター、林委員さんからお願いします。

林委員

県の広報番組ということで、「知って得する」いろんな施設や、イベントを紹介することが番組の主旨ということですが、そうじゃないかもしれないけど、私が思ったことだけかもしれないけれど、夏休みのお子さんたちを中心に狙いで、こういったJAXA。番組の中にありましたけど、「7年たって、今どうなっているんだ」という疑問を持っている方、お子さんたちに、あるいはどうなったんだろうという疑問に答えるという意味では、非常に企画はよかったのではないかと。日曜日の朝の番組ですから、明るく元気ということが十分生かされていたと思います。伊藤先生はおっしゃったんですけど、私はちょっと違った考えを持っていて、少しはしゃぎすぎじゃないかと私は思ったんですね。ウッズさんという方ですけど、ボキャブラリーがあまり。「すごい」とか「すげえ」という言葉がかなり頻繁に出てきていますが、驚きだとかそういった印象を語る言葉は他にあるわけで、別に笑いを取る必要はないし、スタジオが申し訳ないけれど、無理をしている気がしまして。「そうじゃないんだよ」ということではあろうとは思いますが。それと、3人必要なのかなと思いました。真ん中の女性の方は、申し訳ないけど、どういうことでお出になったのか。お菓子みたいなものを食するためにお出になったのか。別にウッズさんと田崎さんだけで番組はもてるんじゃないかという気がしました。それから、イベント情報がいつからどうだ、という話がありましたね、市立博物館の。それはカットされていま

たが、僕はあれがこの番組の狙いじゃなかったかなと思いますが、そうであれば最後一括して、博物館観望会やりますよとか、JAXAでは最後の施設見学、しばらく休館するとおっしゃっていましたが、最後に改めて視聴者の皆さんに、皆さんというのが何を指すのかわからないんですが、お出しいただくのも親切ではなかった。親切という意味では施設がどこにあるのかというのが最後までわからなくて。たとえば駅からどれぐらい離れているとか、出ていましたか。

武富プロデューサー 地図は出していなかったです。

林委員 「行ってみようかな」と思う人が、どういうふうに分で行けばいいのかわからないんじゃないかなと思いました。細かいところですが、最後にプレゼントがありましたね、珍味がありましたね。僕はお子さんを対象にした番組だと思ったから、別にあそこで宇宙関係の試食とか売っているのであれば、そっちの方がいいんじゃないか。別に珍味を出す必要があるのかな。それは番組制作上のいろんな約束事であるかもしれないんですが、そこはちょっとどうなのかなという気がしました。ちょっと細かいことかもしれませんが。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。いろいろ質問や、クレームというほどではないんですけど出ましたので、重複するケース、同じような意見を言う委員もいますので、それは武富さんの方で最後にお答えしていただければと思いますので、よろしくをお願いします。続きまして五大さん。

五大委員 私も、夏休みで子供向けに作っている好ましい番組だなと思いました。途中最後の方に画面に絵が入ってくるようなところがあったんですが。

武富プロデューサー はやぶさのところですか。

五大委員 はい、その辺が面白かったなと思いました。神奈川県広報番組としては好ましい内容だったなと思いました。私も行ってみようかなと思うときに、もうちょ

つとわかりやすいといいなと思いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続いて白石さんお願いします。

白石委員

神奈川県に施設が2つ、博物館とJAXAがあるというのは驚いたというか初めて知りました。ぜひ行ってみたいというきっかけに、私の場合は。「相模原にこんな施設があるんだ、行ってみたいな」という気持ちが、ひとつ浮かんでいました。JAXAは、「これが隕石です」「これはかけらです」と、そういうのがわかる。非常に大事な仕事をしたんだろうと思います。何が発見されたのか、の7年間、この石から、ごみから何が発見されたのかということを知りたいなと思いました。でも大宇宙の中の研究ですから、そんな早く結果は出ていないと思いますが、興味はありましたね。この番組を見て、この先どんな結果でもいいんですけど、聞きたいなと感じたところです。それから天体観望会を月2回行っているようですが、少ないような気がします。あれだけの大きなもので、月2回ではもったいないと思いました。今、天体望遠鏡マニアは非常に多いと聞いているんですが、こういった方々が、この観望会に入って、これを利用しているのかどうか。たぶんマニアの人たちは参加しているんじゃないかと。非常に立派な施設ですね。23メートルとか書いてありましたね。非常に大きな施設で、月2回ではもったいないので、どれだけ利用しているのかどうか知りたかったです。いずれにしても、ここに携わっている人たちは、自分が生まれて死ぬまで結果は出ないかと思いますが、大変大きな宇宙の出来事ですから、いい仕事をしているなど。あそこで働いている方は、いい仕事だなと思ったところです。この前も別のテレビで聞いたんですが、引き潮満ち潮なんかは、太陽と地球と、中に月ですかね、世界の中で一番大きいときは8メートルの引き潮、その高さ、それは月の影響だよと。なるほどと。こういう方々が引き潮、満ち潮、そういうことに対する漁業、まちづくり、港を作るのに対す

る大変大きな影響を与えているんだなと思います。ぜひいい結果を出してほしいと、そういうことを感じてみたところでした。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして吉川さんお願いします。

吉川委員

私は、興味深く拝見いたしました。次週が「農業を支える女性」というテーマで書いてありましたが、今回の「日本で一番宇宙に近い場所」というテーマタイトルも、なかなかいいタイトルだなと思いました。ただJAXAの相模原キャンパスの回に相模原市立博物館がセットであったんですが、たとえば小惑星のイトカワなど、全く同じものもあるじゃないですか。それが重なって見せられているうちにどっちがどっちだか。情報が、1回見ただけでは混乱してしまうところもありましたし。他の委員の方もおっしゃっていたように、相模原市立博物館は博物館で見どころもいろいろあるので、これは一緒にやらなくてもあるいはよかったのではないかと。今回のテーマは、はやぶさの帰還後のことを切り口に焦点を当てたのであれば、思い切ってむしろはやぶさのことを、もうちょっと。「はやぶさの映画を観たばかり」とウッズさんはコメントされていましたが、多くの人を知ってはいるでしょうけれども、どういうふうになって軌道を外れそうになって、感動の帰還があったのかということを紹介しながら、JAXAにもっと焦点を当て切っちゃっても、あるいは1本作れたのではないかなという気もしました。私はいろいろ評価があると思うんですが、ウッズさんのレポートは、私自身はとても好印象に思いました。思いつくまま五月雨式に細かいことまで申し上げていくと、はやぶさと同じ大きさで作られた実験用の同型モデルに対して、ウッズの言葉をそのまま拾って「実物大のはやぶさ！！」というキャプションがついていたんですが、これは不正確で、実物のはやぶさとほぼ同型のモデル。モデルなんですよ、はやぶさそのものではないので、やはり科学系の番組なので、科学を紹介するのであれば、そこら

へんも気を使ってほしいなと思います。宇宙食のアイスは、私も食べたことがありますし、実はJAXAも行ったことがあるんですが、アイスを景品にクイズをやっていましたが、不正解だった田崎さん、年配の女性が、当然のように正解した若い女性のアイスを横から手を出して食べてしまうというのは、食べたい好奇心があっても、クイズの景品と言ったからには、番組が終わってから裏で食べてほしいなと思いました。今回一番JAXAの紹介で印象的だったのはシミュレーションゲームで、これはやってみたくて多くの人が思ったんじゃないでしょうか。ウッズさんが簡単に成功に到達しなかったというとか、失敗に終わったのも映像的にはよかったんじゃないかなと思いました。それからキュレーションセンターは特別に公開という珍しさもありましたし、今回の「帰還後が勝負」という番組テーマの一番核心に触れる施設で、見ごたえもあったと思いますが、クリーンルームを外から映すだけという映像の限界もあり、もう少し粒一粒ずつ拾い上げながら分析して7年もかけているというところが、何かしらもうちょっと伝わる映像があってもよかったのかなと思いました。映像中、私も早い時期から「なんであんなカンカン音がするんだろう」と気になっていたら、ウッズさんがインタビューの中で聞いて、「クリーンルームの工事をしているんだ」ということを聞き出してくれたのは、非常に私も得心がいて安心しました。あとは、イトカワのサンプルが太陽の熱で日焼けしていたので、今回より深いところから採取するためだといってインパクトの開発をやっていましたが、個人的にはいくら宇宙資源を利用するためとはいえ、よその惑星を人類が行って破壊する、その破壊の研究をしているというのは、誇らしげに言っちゃっていいのかなということが、なんとなく見ている側の感想として残ったことでした。プレゼントについては、他の方もおっしゃっていましたが、「今月は」と言っていたので月単位だと思うんですが、宇宙らしいテーマに合わせたものの

方が、やはり番組に沿うのではないかと。田崎さんが「日本酒クイっと、いくらでもいけそうですね」というのは、ちょっと番組とあまりにもリズムというか雰囲気違って中断されてもったいなかったなと思いました。最後に工事のためにキャンパスが閉鎖になるということが、インタビューの中では言われていましたが、8月25・26のイベントのお知らせのテロップを出すのであれば、それよりもっと重大な閉鎖期間についてもやはりテロップで流さない。この番組を見たら絶対行きたいという人が出ると思うので。行ってみたいけど閉鎖だったということになってはいけないので、そこはテロップでしっかり目に留まるように映してほしかったなと思います。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。では布施さんお願いします。

布施副委員長

私はあまり言うことがないんですけど。というのは、一般論として私も含めて学生や子供たちというのは、宇宙にものすごく興味がありますよね。ただそういう中でこの番組を見ると「すごい」「すごい」が連発されていて、何がすごいのかということ、もうちょっと知的に言ってもらわないと。「すごい」だけじゃ、興味を持っている子供や大人に突っ込みはないと思うんですよね。ある意味では科学性というのか、宇宙問題をやる場合には、どうしても科学というのは基本に据えられなければならないから、そこら辺を抑えたいうで。なおかつわかりやすく説明していくというのは大事だと思います。そうしないと一回こっきりで宇宙のテーマなんか終わらないわけだから、様々な話題が出てきて相当長い番組になるんじゃないかと思います。たとえば、昔私糸川さんにも会ったことがあるけど、糸川さんがどういう研究をして、どういうことに興味を持っているんな研究をしながら、最終的にそういう名前になっているのか。日本人としてはもうちょっと位置付けていかないと。ただイトカワがどうのこうのとか。そこから隕石のかけらを持ってくるだけじゃ、不十分だと思います。これから宇宙

問題に関する我が国の役割は、すごく大きいですよ。だって宇宙問題というのは、他の先進国で言えば軍事問題ですから。ところが日本の場合は軍事問題じゃないわけでしょう。非常に科学的に宇宙を観察し理解していくところに、他の国よりももっと集中していかないといけないんですよ。そういうことを考えると、イトカワ一つとっても、何回もわかりやすく、なおかつ面白く続けるテーマでしょう。これをちゃんと続けていけば、我が国の一般国民の理解、宇宙に関する理解、我が国の基本的な、国の哲学に対する理解を向上させることにもなるし、子供たちの、たとえば宇宙工学なんてありますけど、意外に人気がないんですよ。私が所属していた大学でもそういう分野はありましたけど、学生には人気ないんですよ。学生はもっと具体的でもっとごちゃごちゃした日常的なテーマが好きで。ところがそうじゃないだろうという。その辺のところを出していかないといけないと思うんですね。その辺からいうと、あまりにもいい言葉が浮かばないんですけど、大雑把で雑で宇宙問題を取り上げているところが気になりました。次から次へと、もうちょっといい番組を編成して、連続的なテーマにしていくということができなくなっちゃうんじゃないかと。今の基本的な姿勢だと。そういうところが気にかかりましたので。ちょっと余計なことですみません。一般論では十分なんですけど、もうちょっとテレビ神奈川が続けていくというところから見ると、認識がもう少し足りないのではないのかな、という印象を受けました。以上です。

山田委員長

それでは今日からメンバーに加わっていただきました二宮さん。今日は初めての試合ですので、6番バッターとして打順を。では二宮さんお願いします。

二宮委員

私もこういう論評というのは、したことがないので、恥ずかしいとしか言いようがないのですが。課題をいただいて最初は一人で見ました。正直よくわかりませんでした。なんとコメントしていいのかが、よくわかりませんでした。次に女

房と子供と一緒に見ました。ただ女房はあまり興味がございません。そして子供は女の子でございます、あまり男女を差別してはいけないんですが、あまり宇宙というものに興味を持っていません。そういう中で何に興味を持ったかという、このウッズさんです。「おもしろいですね」ということで。私は武富さんとも、武富さんが「旬菜ナビ」で東北の復興を番組にしてくださいというときに同行させていただいて、武富さんがその場その場でいろんなシチュエーションをイメージしながら「じゃあ、気仙沼いってみようか」とか、もともと入っていないようなコースも取り入れたり、そして当時の女性レポーターをどういうふうに引き立てようとか、ものすごく苦労されているなど見ていました。そういう視点で、私はウッズさんを見ました。私はウッズさんを知りませんから、そのときに「デビット伊東さんと似ているな」と。しゃべり方が似ているなど思いながら見ていました。ただ、この番組はおそらく県が提供しているまじめな情報提供番組だと。そういうときに「ずいぶんとウッズさんは、はしゃいでいる人なのかな」と思いました。ですからデビット伊東さんだったらどうやるのか。本当はよく白衣を着てテレビに出てくる研究家の何とかジロウさんとか、物知りの池上彰さんとか、そういうタイプの人が出ていたら結構うちの娘も聞くんじゃないかなとか、そんなことも思いながら。正直自分の中に入ってきませんでした。ウッズさんも苦労されているなど。最もわからなかったのは、入口のところでドアが開かないということで困っていたと。これはなんだろうかと。仕込みなのか、アドリブなのか、なんだろうかというのがまずありましたし。それから、途中でもしかして編集でカットされたのかもしれませんが、「映画で観た」「映画で観た」とおっしゃっていたんですが、それ、多分みんな知らないと思います。特に子供たち、何年も前のことだと、多分知らないだろうと。もうちょっとそういうものの背景も紹介していただければ、私も映画観ていなかったもので、どんなも

のだったのかよくわからなかったというのが正直なところですよ。すみません、
生意気なことを言いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。この番組については、ある意味楽しく見させていただ
きましたが、今の録画の中にはJAXAが中心で、相模原市立博物館のことは
入っていませんでしたが、番組の中には相模原市立博物館のことも入ってい
まして、実は相模原博物館は非常にしっかりした内容の博物館ですよ。その
博物館としてはこの辺ではかなり際立ったものだと思います。私も20年ぐら
い前に足を運んで取材をしたことがありますが、またゆっくり来たいなという
思いがありまして。本当はもうちょっとタイトル通りにはないんですが、相模
原博物館のことに触れてほしかったなと思います。それとナビゲーター役の
男性がいましたが、これはどなたかも話していましたが、やはりちょっと「すご
いな」「やあ」とか、そういう感嘆詞だけで言葉を。もうちょっと突っ込んだ答え
で説明をしていく。せっかくJAXAの広報担当者の方が説明しているのに、
ちょっとかみ合わない部分もあって、説明の中にナビゲーター役の男性が踏
み込むことがなかったなという感じがいたしますね。それと、スタジオの女性
の2人も、あれはどちらか1人でよかったんじゃないかなという気がいたします。
おそらく7月2日の放送で、これから夏休みに入るので「子供たちが」というこ
とで、非常にああいう感じではしゃぎすぎというか、私にはちょっとおちゃらけ
たというイメージがあったんですけど、そういう形で。本人たちは「これがいい
かな」と思って進んでいったと思うんですが、ちょっと内容的には、せっかくの
良い材料が壊されたなというイメージが強いですね。それと、相模原というの
は、やはりこの神奈川県の中でも特異な歴史がありまして。かつて第二次世
界大戦中は軍都、軍の都だったんですよ。陸軍士官学校があったり、いわ
ゆる軍の施設があちこちにあつて。JAXAの建設もその延長線上にあつた。

相模原市立博物館も、そうした軍の関連施設のふうに成り立っていることもありましたので、そういったところにも触れてほしかったなという感じがいたします。これは後で、武富さんからお答えしていただきたいんですが、これはおそらく神奈川県広報課が全部番組はチェックすると思うんですが、その辺のやり取りはどういうふうにやったのか。これは一発勝負で「ああ、これでやってください」とOKになったのか、それとも何回か編集をし直して、この番組が出来上がったのか。ちょっとその辺を、最後に結構ですのでお伺いしたい感じがいたします。いずれにしても、先ほど武富さんが話しておられましたように、8年という長い歴史がありますので、これからも続いていってほしいと思うんですが。やはり愛される番組になるには、そこに目が釘付けになる、そこに一歩踏み込むというような内容のもので、そのためには材料そのものにも、それを進行していく人が大事じゃないかなという感じがしました。これからはいろいろと頑張ってもらってやっていただきたいと願っております。他に言い足りなかったこと、言い忘れたことがございましたら。

林委員 ちよっといいですか。

山田委員長 どうぞ。

林委員 宇宙の研究は、しばしば生命の起源に迫れるとかというのは、よく聞かれる言葉なんですが、ウッズさんに、「人間は炭素でできている」「サンプルにも炭素が含まれている」ということで、その辺に逆にヒントがあるかと思うんですが、ウッズさんに「どうして生命の起源に迫れるんですか」と、それを聞いてほしかったです。わかっているようでわからない話なので。そこが番組のキーポイントじゃないかなという気がしました。そこを聞いてほしかったですね。他はさしてと思いますが。その点だけ。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、いろいろ注文や質問がありましたら、

反論したい部分もあろうかと思いますが、武富さんの方から特に順番はありませんので、気が付いたところから話していただきたいと思います。

武富プロデューサー まずレポーターに関しては、4組のレポーターを今作っているんですが、どちらかというと体験型を得意にしているウッズ、それから梅小鉢という二人組のお笑い芸人と、スタジオに来ていた瞳ゆゆという元タカラジェンヌ、もう一人が若手の女の子でダンスを得意としている刈川杏奈という。基本的に今期からなんですが、レポーターとして今まではスタジオに来て、田崎さんと2人で進行していたんですが、日曜日の朝、他の番組を見ると、どうしても2人での進行が絵面的に寂しいということと、やはり視聴者、そこに現場に行っていないレポーターを取り入れようと、今回の場合は瞳さんですが、ウッズさんのレポートに対してコメントを言わせるという、スタジオ展開のために入れるようにしました。それについては4月からで、いろんなご意見もあると思うんですが、いかにスタジオに、現場に行っていない目線の視聴者を代表させたレポーターを入れるというのは、これからどういう形で活かしていこうかと思っています。それは皆様のご意見も参考にしていきたいと思います。ウッズに関しては、確かにノリはいいんですが、ちょっとボキャブラリー的にも少ないところがあって、そこはディレクターが、林先生もおっしゃいましたが、肝は何なのかということは丁寧に作っていかなくちゃいけないなと思います。先ほども申しましたけど、「カナフルTV」は毎回テーマが違うんですね。今日収録したのは福祉関係のネタですが、来週放送するのは旅的なものだったり、農業がテーマだったりとか、神奈川県さんの所管課さんが「こういうものを番組にしてほしい」というのが広報に来ます。今番組が知事室主導でやっていますので、その中で、この季節はこの部署のデータを拾おう。今回は夏休みということでももちろん所管課さんの方が「博物館にしまおう」ということがテーマだったんです

が。そういった意味で言えば、先ほどご指摘にあったように、休館ということが一番大きなテーマだったと思います。そこはやはりしっかり出さなきゃいけない。テロップに関しては「実物大の」というテロップもそうなんです、テロップに関してはすべて広報課のチェックが入ります。その中でも確かなこと、そういったものを我々の方も再認識して、県の方から。テロップは今回JAXAさんからも全部チェックが入って、そういったものもあるんですが、そこは見直していきたいと思います。取材先の場所については、以前は地図を出していたこともあるんですが、今は検索のキーワードを長めに出す、もしくは2回出す。もちろんホームページが見られない方もいらっしゃるんですが、なまじ地図を出しても見づらいというご指摘もあったので、今は検索のキーワードで調べていただくことが多いです。そうした部分に関しては、やはり場所がわからなければ意味がないので、そこら辺はこれからの課題にしたいと思います。スタジオMCの田崎さんは、ちょっとおばさんで食いしん坊キャラを出しているところがあるので、何でも食べてしまうという演出的なもので、持ってきたものを横から食べちゃうという、演出的なもので、そういうスタジオ展開をしているところもあるので、その辺のところはご理解いただきたいと思います。ただインパクトについては、僕も、他の惑星の侵略じゃないかと。JAXAさんの出来物だったので入れざるを得なかったんですが、確かにあれは激しい映像だなと思っています。二宮先生がおっしゃった今回は宇宙のテーマで、みんなが宇宙に興味があるわけではないということは、僕らも認識しなきゃいけないし、確かに主婦の方や女の子さんにも見てもらわなければいけないんですが、そういうネタの時に、どういう風に見ていただけるようにするか。端的に言うと、きっと丁寧に作らなきゃいけないんだなというのは思います。テロップについても、スタジオのコメントについても、テーマについて、林先生がおっ

しゃったように、何をレポーターに聞かせるのかということも含めて、我々もテーマに合わせて作っていかないといけないと思います。それとこの番組の作り方ですが、普通の番組と違って県の直接広報ということで、たとえばインタビューも全文起こします。全文を起こして全文をチェックします。すべてのコメントを活字にして、「ここを使え」「使うな」「直せ」。テーマも「いつ、どこどこに行っ、このテーマで」というのは、どちらかという県からおりてくる。それを我々がどう料理するかということで勝負しています。出来上がったものに関しても県のチェックが入って、収録も県のチェックが入って、VTRに関してもコメントはすべて県のチェックが入っています。余裕的かというと、普通の番組よりは厳しいところもあるんですが、それについてもどう演出していくかということは考えていきたいと思っています。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。今日の批評の一つの対象になりましたナビゲーター役の男性ですね、あのしゃべり、行動については、県の方のチェックはそんなに厳しく入ってこなかったんですか。

武富プロデューサー そうですね。もっとできたんだと思います。ネガティブなチェックではなくて、もっと我々が目指さなきゃいけないのは、もっと面白いことを引き出すように。彼と現場の演出の人間が、今回ならクリエイティブだとか、知識を持って現場に当たらないといけないんだなと思います。そういうところにはチェックは入りませんので。使用する・使用しないという段階でチェックは入るんですが。

山田委員長 なるほど。他にございませんか。ないようでしたら、武富さん、どうもご丁寧にありがとうございました。それでは3番目、その他報告事項に移りたいと思います。

近藤編成部長 それでは視聴者対応についてこちらの方をご覧ください。2017年6月17日

から7月14日までの視聴者対応です。電子メールは約1万通、電話806件になっております。7月に入ってから高校野球が始まるということで、技術の方に受信相談が増えているというのを聞いております。あとは「あっぱれKANAGAWA」「クルマでいこう!」「かながわ旬菜ナビ」「ハマナビ」といったところですが、一番最後の方に高校野球の録画予約に関してご質問をいただいております。延長時間、時間内に収まりませんのでSV02というサブチャンネルで高校野球の放送をしていますが、それに関してのご質問をいただいております。視聴者対応については以上です。

山田委員長 ありがとうございます。視聴者対応について事務局から説明がありましたが、これについてご意見ご質問等がありますか。よろしいですか。ないようでしたら、前回の番組審議会の議事報告に入りたいと思います。

議 事 報 告

山田委員長 これで本日の議題はこれですべて終了しましたが、事務局から何か。

近藤編成部長 次回の放送番組審議会ですが、8月は休会になりますので、9月19日午後2時から3時30分、この場所で行わせていただきます。次回の視聴合評番組は先ほどもご紹介させていただきました「報道特番 見えない壁～津久井やまゆり園殺傷事件」です。8月12日土曜日よる16時～16時55分の方をご覧ください。また冊子を入れさせていただいています。「2016年の選挙をめぐるテレビ放送についての意見」というものでして、BPOから文書が出ております。こちらは番組審議会でも答申ということが言われていますので、こちらの方にも目を通していただければと思います。また「BPO報告」もよろしくお願ひします。先日の民間放送連盟大賞、地区予選で依然皆様に視聴合評していただいた「僕の電気」は、残念ながら地区予選で落選してしまったんですが、関東の独立局の中では最高点をいただきましたので、その点をご報告いた

します。以上になります。

山田委員長

それでは、皆様の方から一言お話ししたいことはございますか。よろしいですか。それでは今日はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。